

2014年春「効果の上がる学習方法」とは
—学力を身に付けて多様な選択肢のある人生を歩もう—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q1：効果の上がる学習の秘訣とは何ですか。

A：(1)大切なことは3つあります。その第1は、自覚をもって学習することです。第2は、学習時間を確保することです。第3は、学習方法を工夫することです。

(2)図で表すと、次のようになります。

「学習の成果」＝「自覚をもって学習すること」×「学習時間を確保すること」×「学習方法を工夫すること」

(3)「学習の成果」は、「自覚」と「学習時間」と「学習方法」のかけ算によって決定されるというのが私の考えです。

(4)この(3)の中で一番大切なのが「自覚をもって学習すること」です。なぜなら、「自覚」をもてばもつほど「学習時間」を確保する工夫をしますし、「学習方法」を工夫するようになるからです。

Q2：「自覚をもって学習する」とは、どういうことですか。

A：(1)岩波書店刊の「広辞苑(こうじえん)」によると、「自覚」とは

①自分のあり方をわきまえること。

自己自身の置かれている一定の状況を媒介として、そこにおける自己の位置・能力・価値・義務・使命などを知ること。「勉強不足を自覚する」

②自分で感じとること

③「仏」自ら悟りを開くこと ⇔ 覚他

(2)「自覚」とは、「今、自分でしなければならないことを知ること」だと私は考えます。

(3)「自覚をもって学習する」とは、中学生は中学生として、高校生は高校生として、今何をしなければならないかを自分でよく考え、よく知った上で学習することです。

Q3：どうしたら「自覚をもって学習する」ことができますか。

A：(1)今、何のために学習するのかを自分の力でよく考えること、よく考えた上でしっかりと意識することです。

- (2)できれば、自分はどのような一生を送りたいのか、どのような人生を送りたいのか、社会に出てどのような社会的活動がしたいのか、「人生の目的」を自分の力で考える。
- (3)その目的を達成するためにはどうしたらよいか、高校や大学、短期大学、専門学校などはどこに進学したらよいか、どのような社会的活動をしたらよいか、自分の生きる意味、自分の社会的使命とは何かを考える。
- (4)そうすると、今、学校で学んでいる意味、何のために学習するのかが少しずつわかってきて、「自覚をもって学習する」ことに結びつきます。

Q 4 : 参考になる本があったら紹介してください。

A : (1)2冊あります。1冊目は、内村鑑三著「後世への最大遺物、デンマーク国の話」です。2冊目は、内村鑑三著「代表的日本人」です。両方とも岩波書店の「岩波文庫」に収められています。

(2)内村鑑三先生の「後世への最大遺物」は講演会の速記録で、ゆっくりと読むととても読みやすい本です。人は死んだあと、後の世、後世(こうせい)に何が遺(のこ)せるのかを説いた本です。「お金」か、「仕事」か、「著作(作品)」か、「教育」か、はたまた「生き方」か。人の生きる意味がとてもわかりやすく説かれています。例えば、後世に様々なものを遺した人の例として、デンマークを緑あふれる豊かな国にした人と、代表的日本人5名の計6名を、この2冊の本ではとてもわかりやすく紹介してくださっています。

(3)内村鑑三先生のこの2冊の本をゆっくりと時間をかけてお読みになり、人生の意味をお考えになってください。このような方々がデンマークや日本にいて、今日のデンマークや日本の礎(いしずえ)を築いてくださったのだな、これからの人生で自分は何をしたらよいのかなどをお考えになられることをお勧めします。

(4)その上で、御自分が気になる人の「自伝」や、「リーダー」や「リーダーシップ」とは何かについて書かれた本などをゆっくりとお読みになり、参考にするとよいと思います。

(5)これに加えて、自覚をもって学習するために私が強くお勧めしたいのは「新聞」です。毎日じっくりと腰を落ち着かせて「新聞」を1ページ目から最後のページまでなめるようにお読みになることです。「新聞」には、地域や日本、世界の出来事の中で新聞社が読者の皆様にお伝えしたい大切なことが手際(てぎわ)よく「編集」されて紹介されています。

地域や日本、世界で今起きていることは何か、その原因は何か、何が問題なのかなど、読者とともに考えたい世の中の課題が紹介されています。

「新聞」をよく読み、地域や日本、世界の出来事や、皆で取り組まなければならない課題をよく知った上で、自分はこれから一生をかけてどのようなことをしたいのかを考えるきっかけをつかんでもらいたい。

(6)「自覚」の意味の1つとして、広辞苑には「自分の使命を知ること」とありました。「使命」とは、「命を使う」、つまり自分の大切な命を使う、一生かけて行うということです。自分が自分の大切な命を使ってまでしなければならぬことは何なのかを知った上で学習すること。これが、「自覚をもって学習する」ことです。

(7)内村鑑三著「後世への最大遺物、デンマルク国の話」と「代表的日本人」の2冊と、御自分でお選びになった「伝記」や「リーダーについての本」、それに加えて、「新聞」を毎日お読みになることが、生きる意味や、今学習する意味を自分の力で考えることにつながります。「自覚をもって学習する」ことに役に立つと私は確信いたします。学校の図書室や県や市、町の公立の図書館、近くの大学にある大学図書館を十分に活用なさり、これらの本や「新聞」をお読みください。

Q5：学校のテストでよい点数を取る、英検や漢検、数学検定などの検定試験で資格を取得する、希望する学校に入学するなどの目標をもつことも、自覚をもって学習する上で大切ですよね。

A：(1)その通りです。日本では出席日数さえ確保すれば中学校や高校、大学で留年する人は少なく、定期テストの成績があまりよくなくても追試やレポートの提出などで補ってくれる学校が多いからです。しかし、多くの国では決められた出席日数を確保すると同時に一定以上の点数が取れなければ留年、つまり、次の学年に進級できない場合が多いようです。定期テストで一定レベル以上の点数を取らなければ進級できず留年となり、卒業できない国が多いのです。日本の大学も「評価が厳格」になり、定期テストの点数やレポートの内容が一定レベルに達しないと不合格となり単位がもらえません。

(2)ですから、学校の定期テストや実力テスト、単元テスト、確認テストなどを受けるときにも、自分は学校で学習する生徒であるからよい点数を取らなければならないという「自覚をもって学習」することが求められます。「自覚をもって学習」すると、誰でもよい点数が取れます。

*世の中のすべてのテストは、「このテストでよい点数を取ろう」と「強い決意」をし、準備を十分にすれば、必ずよい点数が取れます。

(3)「英検」や「漢検」、「数学検定」などの「検定試験」も「自覚をもって学習する」ことです。合格するための学習をしっかりと積み重ねれば必ず合格します。自覚が不足し、学習を怠(おこた)ると、簡単に思われる試験でも不合格になります。試験を侮(あなど)ってはいけません。軽くみて、ばかにしてはいけません。

(4)まして、中高一貫校や私立中学校、高校、大学などに進学を希望する受験生は、「自分は入学試験を受験する受験生なのだ」という「受験生としての自覚」を一日も早くしっかりと持って学習することが大切です。

(5)実は、「受験生としての自覚」をもつのは早ければ早いほどよいのです。私は将来～になりたい。～になって…をしたい。そのためには大学で勉強しなければならない。その大学に入学するためには高校に入らなければならない。ではどこの高校がよいかなどと考えて、入学したい高校を決める。その高校の受験を決める。このような決意をした人はたとえ中学1年生でも「受験生」です。中学1年生から「受験生としての自覚をもって学習」すれば、どのような難しい高校にも合格が果たせます。ただし、「受験生としての自覚をもつ」のが受験直前であると、難しい学校ほど入学するのが困難になるのが厳しい現実です。ですから、「受験生としての自覚をもって学習する」のは早ければ早いほどよいと私は考えます。「志望校」は受験日の2～3年前に決定することを強くお勧めします。2～3年あれば必ず合格しますよ。

Q 6 : 「学習時間の確保」の仕方をお話ください。

A : (1)1日は24時間しかありません。眠ったり、休んだり、食事をしたり、トイレに行ったり、入浴をしたりする時間も大切です。買い物、食事作り、あと片付け(かたづけ)、掃除(そうじ)、洗濯(せんたく)、洗濯物の取り込み、筆筒(たんす)への収納などの「家事」をするにも時間がかかります。家の仕事の手伝いやアルバイトをしなければならない人は、そのための時間も取らなければなりません。「学習時間」がどんどん少なくなっていくます。

(2)当然のことですが、学校では授業時間の他に、学校への行き帰り、部活動、学校行事や部活動の遠征などにも時間を取らなければなりません。

(3)このように考えると、たとえ学校の生徒であっても毎日の生活はとても忙しいので、その中で自分の目標達成のために学習をする時間が少しでも取れたら宝物のように大切に、その時間だけでも一心不乱に机に向かうことをお勧めします。

(4)ゲームやスマホ、ケータイ、メール、TV など、世の中にはやればやるほどおもしろいこと・興味をひかれることはたくさんあります。しかし、自分が今やらなければならないことは何かをよく考えることも大切です。自分が今しなければならないことは何なのか、自分の立場や義務、社会的使命などを十分に「自覚」した上で、学習に傾ける時間を1分でも多くすること、つまり学習時間を確保することが大切です。

(5)よく考えてみれば、学校生活や家庭生活は自分以外の人とともに生活する共同生活です。他の人との共同生活をする上で必要な時間はそれなりに大切にした上で、他のメンバーに迷惑のかからない範囲で最大限に「学習時間を確保」することです。

(6)私が皆様に最も御提案したいことは、学校での「学習時間の確保」です。学校での授業前や授業後、授業中こそしっかりと「学習時間を確保」して「自覚をもって学習する」ことです。

①「授業前」の数分間には、これから行われる授業科目の「ノート」と「教科書」に「1ページ目からザーッと目を通す」こと。これで、今までに学んだことの復習もでき、知識が「定着」します。授業直前にたとえ1～2分でも復習を行うと今までに学習したことが頭に入りますので、パッと先生の授業に入っていきます。

②「授業中」は、先生のお話を聞きながら教科書や教材をよく読み、ノートを取り、わからないことは質問することで「理解」が進みます。

③「授業後」は、学校にいる間に1分でも多く「学習時間を確保」した上で、授業の内容を思い出しながら教科書や教材を読み直し、計算や問題があったらすべてもう一度やり直し、ノートをわかりやすく整理した上で「理解」すると知識が身に着きます。

(7)私は、学校でこそ「学習時間を確保」することが大事であると考えます。学校の教科書や教材、学校で用いる問題集や授業中のノートは、学校の授業直前に少しでも「予習」をした上で授業を受ける。授業中は先生のお話で「理解」に励む。授業後は学校にいる間に少しでも復習をして「定着」に励むことをお勧めいたします。

Q 7 : では、一体どこで学習をしたらよいのですか。学校の図書室や街の図書館で学習することも考えられますので、図書館での学習について気をつけたほうがよいことを教えてください。

A : (1) 「図書館」で学習するときが一番大切なことは、静かさを保つことです。友だちと一緒に行ってもおしゃべりを一切しないことです。必要なことがあったら小さな声で話すこと。図書館員と話すときにも大きな声で話すことは禁止です。

(2) 図書館の本への書き込みは一切しないこと。本のページを折らないこと。本を傷つけないこと。もとの状態で返却すること。とにかく図書館の本は公共のもの、みんなのものですから、「きれい」に使うことです。

* 図書館の本を破ったり傷つけたりすることは器物損壊罪という犯罪ですので、罰せられます。また、損害賠償の請求を受けます。

(3) 図書館で借りた本は期日までに必ず返却すること。

(4) 図書館の自習室は混み合っていることが多いので、開館時間の少し前に行って列をつくって待ち、よい席を確保すること。

(5) 図書館に入ったら、まずはトイレを済ませる。そのあとは、とにかく一心不乱に読書や自習に励むことです。ただし、1時間に5～6分は休み時間を取り、軽いストレッチ体操を行ったり、トイレを済ませたりすることです。気分転換も大切です。

(6) 図書館内での飲食は禁止です。どうしても水が飲みたかったら、カバンの中にペットボトルを入れておいてその水を飲み、飲み終わったらカバンの中にしまうこと。机の上にペットボトルを置くことは、図書館の雰囲気をつぶします。

* 多くの大学の図書館ではペットボトルを机の上に置くことは禁止で、置いておくに注意されます。

* ところで、都心の大学を除いて日本国中の多くの大学の図書館は、地域の人々に開放されています。一定の入館の手続きを踏みさえすれば、小学生、中学生、高校生も近くの大学の図書館は使用可能です。自分の学校の図書室の他に、自分の街にある公立図書館や近くの大学や短期大学、専門学校にある図書館もルールを守った上で大いに利用しましょう。

(7) いすを引くときには、音をさせないこと。席を離れるときには、必ずいすは音をさせずに元の位置に戻すこと。消しゴムのカスなどはティッシュでまとめ、図書館のゴミ箱に入れずにカバンの中に入れておいて家のゴミ箱に捨てること。空(から)のペットボトルなどのゴミもすべて家に持って帰って家で処分すること。

* このような図書館などの公共施設を使うときのマナーも少しずつ身に付けてください。

Q 8 : 「学校の図書室」はどのように活用したらよいのですか。

A : (1) 自分の学校の図書室にこそ毎日通いつめることです。時間があったら学校の図書室に行き、新聞や雑誌を読む。学校の各教科の教科書に出ている本や授業中に先生が推薦して下さった本を探し、たとえば最初の2～3ページでも読んでみる。気に入ったら、貸し出しの手続きをして図書室や教室、自宅などでじっくりと読む。

(2) 授業の予習や復習も学校の図書室で済ませることを私は強くお勧めします。

- (3) 英語の新聞があれば、わかるところだけでも毎日読むこと。日本語の新聞を読んだあとに英語の新聞を読むと、よくわかります。図書室にある DVD や CD、学習マンガなども見たり、聞いたり、読んだりすると学習への興味・関心が深まります。
- (4) 何を読んだらよいかかわらなければ、図書室にいる図書館司書の先生に相談するとよく教えてくださいますよ。

コラム

日本にはまだあまりありませんが、外国の大学の図書館は 365 日 24 時間開館しているところがあります。私が、今から 15 年前の 1999 年にアメリカのボストンにあるハーバード大学行政大学院(ケネディスクール)の一部である国際開発研究所で 3 週間の短期集中コースに参加しているときには、時間があると教室の横にある休日や早朝から深夜まで開いている図書館で予習や復習をしていました。日本の大学でも慶應義塾大学の藤沢キャンパスは一晩中やっているようです。

Q 9 : 「学習時間の確保」について、他にアドバイスはありますか。

A : (1) 学習をしたあとに、コンピュータゲームをやらないことをお勧めします。あとにもお話しますが、「学習」はかなりゆっくりと進みます。学ぶべき内容を 1 つ 1 つゆっくりと「理解」したり、その「理解」した内容をしっかりと身につけたりするために、声を出して読む練習や正確に書けるようにする練習、計算や問題練習などをします。

(2) このようかなりゆっくりとした取り組みをして、学力を少しずつ向上させるのが学習です。しかし学習の直後にコンピュータゲームなどをして頭脳を激しく用いると、「記憶の痕跡」があまり残らず、せつかく「理解」したことや「定着」したことが無駄になってしまうこともあります。ですから、コンピュータゲームなど刺激を与えるものは、学習の直後には行わないことを私はお勧めします。

(3) 「悩む」時間が長いと、「学習時間の確保」が難しくなります。成績が上がらないことに悩んで学習が手につかないという方もいますが、私はその方に次のことをお伝えしたい。「いくら悩んでも成績は上がらない。悩む時間は 1 日 30 分までと決め、悩む時間があつたら机に向かうこと」と。ただし、現実的には、悩みが深いと机に向かう気にはなれないでしょうから、好きな音楽を聞いたり、散歩に出かけたり、家事や家の仕事を手伝ったり、スポーツや芸術活動に励んだりすることをお勧めします。また、ピアノなどの楽器が演奏できる人には、好きな曲を 1 人で演奏することをお勧めします。映画を見たり、読書をしたり、お友だちや家族とおしゃべりを楽しんだりすることをお勧めします。「悩む時間は 30 分まで。悩む時間があつたら机に向かおう」、私はそのように思います。皆様はどのようにお考えになりますか。

(4) カバンの中や机の上、机の中、自分の学習スペースが乱雑だとものを探すのに時間がかかり、「学習時間の確保」の妨げになります。

(5) そこでお勧めしたいのが「5S(ゴエス)」です。「5S」とは「整理」「清掃」「整頓」「清潔」「躰」のことです。それぞれの言葉をローマ字で書くと、すべて「S」で始まります。5 つの S なので「5S」といいます。それぞれの「S」には特別な意味があります。

- ①「整理」とは「不要なものを処分すること」です。
- ②「清掃」とは「整理したあとをきれいにお掃除すること」です。
- ③「整頓」とは「必要なものを一定の場所に置き、サッと取り出せるようにすること」です。
- ④「清潔」とは「①～③の状態を継続すること」です。
- ⑤「躰」とは「以上のことを他人に言われなくても自分の意志で行う、自主的に行うこと」です。

(6) 自分のカバンの中、学校や家の机の上、机の中、ロッカーや本棚などの学習スペース、ダンスの上やダンスの中から、まずは「整理」つまり不要なものを処分しましょう。

(7) 次に、そこをきれいに「清掃」する。1つ1つのものの位置を決め、同じところに置き、サッと取り出せるようにする。その状態を続けることで「清潔」を保つ。保護者や先生などからやりなさいと言われなくても自分から進んで、自分の意志で積極的に行うこと。これが「5S」です。

(8) 「5S」は家での生活や学校での学習・活動にも役に立ちますが、皆様が将来、学校を卒業して仕事や社会的な活動をするときにもとても役に立ちます。学校時代から「5S」に励むと、仕事や社会的な活動をするときにもとても役に立ちますよ。

(9) 試しに、皆様の保護者の方やお知り合いの方で仕事をしている方に「5S」は社会に出て役に立つのかを質問してみてください。

(10) 家の方や友だちなどとケンカをするとしばらくの間はイライラがつり、「学習時間の確保」が難しくなることがあります。心を穏やかに保ち、ケンカをしないようにすることが大切です。ケンカ後しばらくたってお互いに少しやり過ぎと考えたら、その相手と仲直りをする 것도大切です。仲直りの仕方としては、大きな声であいさつをすることをお勧めします。例えば、「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」「さようなら」「行ってきます」「ただいま」「いただきます」「ごちそうさまでした」「おやすみなさい」などと大きな声で心のこもったあいさつをすると、相手は「自分に対して悪い感情を持っていない」ことを「理解」して仲直りをするよいきっかけがつかめますよ。是非試してみてくださいね。

Q10 : 「効果の上がる学習方法」の秘訣の3番目に、「学習方法を工夫する」とあります。どういうことですか。

A : (1) すべてのものごとをするときには、思いついたことを思いついたままやるのではなく、そのやり方を工夫した方がよい結果が出ます。「学習」するときも、やりたいように、また、思いついたままに何時間も机に向かってもよい結果が出るとは限りません。「学習の仕方」を工夫し、自分の今の学力の状態にピッタリと合った方法・やり方でした方がよい結果が出ます。

(2) では、どのようにしたらよいか。私は、「学習」を3つの段階に分けて1段階ずつやり方を工夫することを皆様に御提案、お勧めしたいと思います。

Q11：何ですか、その3つの段階とは。1つ1つ詳しく説明してください。

A：(1)私は、「学習」を「理解」「定着」「応用」の3つの段階に分け、1つ1つの段階にふさわしい学習のやり方、学習方法を自分なりに工夫すると「効果の上がる学習」ができると考えます。

(2)その第1段階の「理解」とは、今、学んでいることが「ああ、これはこういうことかとよくわかること」「うんなるほどとよくわかること」「腑に落ちること」です。

(3)「学校の授業」はもちろん、「学校の教科書」「学校の副教材」「学校の問題集」「学校の授業ノート」などが「うんなるほど」とよくわかること、これが「理解」です。少しずつ説明しましょうね。

Q12：「学校の授業」を「理解」するにはどうしたらよいですか。

A：(1)姿勢を正し、手を机の上に置き、先生の目を見て、先生のお話を一言も聞き漏らさないように熱心な態度で授業に臨むことです。

(2)授業中は、先生の指示に従ってグループワークや実験、観察、実技などを行ってくださいね。先生が黒板やホワイトボードに書いた内容(板書内容)は、すべてノートに取ることはもちろんです。これに加えて、授業の内容の中で必要なことを「ノート」に取り続けることも大切です。

(3)授業中にノートを取るには、とても高い能力が必要とされます。ノートが取れる人は、「ノートを取る能力」が高い人です。授業中に学ぶ内容が難しくなればなるほどノートを取ることが難しくなりますので、板書事項や先生が授業中にお話になった大切なことはできるだけ正確にノートに取るように努めてくださいね。

(4)社会に出ると、「ノートを取る」と言わずに「メモを取る」と言うようになります。仕事や社会的な活動だけでなく家事や個人的な生活をするときにも、必要なことを正確に「メモ」をし続けることはとても大切です。人と会う約束をするときに、何時、どこで、誰と、何のために会うのか、何を準備しなければならないのかを電話やメールで打ち合わせて、その内容を自分の手帳にメモしておくことは、会う約束を果たす上で欠かせません。

(5)いろいろな人と打ち合わせをしたり、教えて頂いたりしたことをメモし続けてはじめて仕事をすることができます。「授業中のノート」をあとで読みやすいように「整理」することが大切なように、一度取った「メモ」をあとで利用しやすいように「整理」することも大切です。「授業中のノート」や「仕事の上でのメモ」を読みやすいように「整理」した上で、それらを繰り返し読み直し、すべてを身に着けることはもっと大切です。

(6)このように、「学校の授業中のノート」や「社会に出てからのメモ」はとても大切なものです。学校にいる間に授業中にしっかりと「ノート」を取り、授業後にその「ノート」を読みやすいように「整理」し、繰り返し読み直してすべてを身に着けることは、学校を卒業後に社会に出て仕事や社会的な活動をするとき、また、家庭での生活をするときに必要なことを「メモ」し、それを活用する上での素晴らしい「予行練習」となります。

(7)「仕事はメモで覚える」「仕事のできる人はメモをよく活用する」と言われている位、「メモ」を取り続けること、メモを整理し、活用することは仕事の上で大切です。

Q13：授業中にノートを取ることは能力なのですか。

A：(1)はい。その通りです。

(2)では、逆にお尋ねしますが、皆様はハングル語やタガログ語、中国語での授業のノートは取れますか。フランス語やロシア語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語での授業のノートは取れますか。皆様の中には英語での授業のノートは取れる人がいるかもしれませんが、日本語ほど正確には取れないのではないのでしょうか。

(3)このように、1つの言語での「授業のノートが取れる」ことは極めて高い言語能力を持つことを意味します。

Q14：ノートは取らなくてよい、ただ聞いていればよいという人もいますが、どのようにお考えですか。

A：(1)すべてを覚えていられる人はそれでもよいかもしれませんが、授業中に聞いたときは「うんなるほど」とよくわかって「理解」できたことも、「ノート」を取っておかないと忘れてしまうことも多いのではないのでしょうか。

(2)私は、大切だと思われることはすべて「ノート」に取っておくこと、そのノートはあとで読みやすいように「整理」した上で繰り返し読み直し、すべてを身に着けることをお勧めします。

(3)ノートを取らずに腕を組んで聞いているだけの人は、その場ではよくわかって「理解」できて、すべて忘れてしまい学力は身に着かないことが多い。たとえ覚えていても断片的に覚えているだけで正確には覚えていない。ノートに書いておかないと時間がたつと忘れてしまうことが多い。そのように思います。

(4)大切なことを記録するために、人類は「パピルス」「紙」というものを発明し、「ノート」という道具をつくったのですから、十分に利用してくださいね。

Q15：「授業中の理解」の妨げになるものは何ですか。

A：(1)「欠席」「遅刻」「早退」「居眠り」「徘徊」「私語(おしゃべり)」「ケータイ」「メール」「スマホ」「ボーッとしていること」などです。先生が授業をしてくださっていても教室に存在しない、教室に存在していても授業に集中していないことはすべて「授業中の理解」の妨げとなります。できるだけ避けるべきです。

(2)遅刻・欠席の多い人は「授業中の理解」が少ないので学力があまり高くない。遅刻・欠席の少ない人ほど学力は高い。これは当然のことと言えます。

(3)特に、授業中の私語(おしゃべり)は他の人の「理解」を著しく妨げる「授業妨害行為」ですので、絶対に行ってははいけません。授業中は「お口にチャック」をし、授業の妨げになる言葉は発しないことが大切です。

(4) 質問や議論に積極的に参加することはもちろん大切ですが、私語(おしゃべり)は絶対禁止です。私語があると、先生が予め計画してその日に進めようとした授業ができませんので、生徒の理解が進まず、学力低下の原因になります。

Q16 : 「学校の教科書」「学校の副教材」「学校の問題集」「学校の授業ノート」などを「理解」するにはどうしたらよいのですか。

A : (1) 例えば「学校の教科書」と「学校の副教材」なら 1 ページずつ、1 章ずつ、1 つの文章ずつ丁寧に読み、そこに書いてあることを「うんなるほど」とよく「理解」することです。

(2) よく「理解」できたら、次の文、次の文章、次のページへと読み進めていくことです。

(3) 読み進めていくうちに、これはどのようなことなのかとわからないことがあったらどうするか。よくわからない・よく「理解」できない原因を自分で考えてください。

(4) よくわからない・「理解」できない原因が「ことば」の意味がわからないためだったら、「国語辞典」や「英和辞典」で調べることをお勧めします。

(5) 「国語辞典」や「英和辞典」は、「武士の刀」と同じで、学習するときにはいつも身近に置いておかないと勝負にならない、戦うことができないものです。辞書があると、わからない「ことば」をパッと調べることができます。しかし、辞書がないとその場ですぐに調べられないので、学習が先へ進みません。ですから、「武士の刀」と同じだと私は考えます。

(6) 辞書を持つなら自分が一番使いやすいものがよいので、なるべく大きめの書店に行き、たくさんの国語辞典、英和辞典の中から自分の現在の学力に一番合った使いやすいものを選んでください。見やすい・調べやすい・持ち運びやすい辞書を選んでください。

(7) 電子辞書は持ち運びが便利なので O.K ですが、紙の辞書にもよさがたくさんあります。ですから、家では紙の辞書をボロボロになるまで用いることを私はお勧めします。

(8) 一度使った辞書は、たとえボロボロになっても捨てないで、ブックカバーなどをして大切に一生使うこと。使い込むほど味が出て自分のものになるのが「辞書」です。

(9) 辞書を用いて調べた「ことば」の意味は、教科ごとの「意味調べノート」に正確に書き写して「記録」しておくこと。書き写したことばの意味は、そのことばと一緒にその日のうちに正確に覚えてしまうことを心掛けてください。

(10) 1 日に 10 の新しい「ことば」を辞書を用いて調べ、意味とともにノートに書き写した上で正確に覚えれば、1 年 365 日で 3650、3 年で 1 万、6 年で 2 万の「ことば」とその意味を身に着けることができます。

(11) 「ことばは力」。正確に身に着けている「ことば」の数が多いほど、教科書などに「書いてある内容」がよくわかります。授業などで先生がお話になっている内容や、人が話している内容がよくわかります。自分で話したり書いたりするときにも、それらを用いることができます。「学力」も向上してテストでよい点数が取れ、仕事や生活に役立てることもできます。

- (12)「ことばは力」「ことばの数は力」です。わからない「ことば」があったら、国語辞典や英和辞典でパッパッと調べ、その意味を確かめた上で「意味調べノート」にことばと意味を正確に書き写し、その日のうちに正確に覚える。
- (13)1日に日本語を10個以上、英語を10個以上辞書を用いて調べることを、学習の習慣にしましょう。
- (14)毎日1～2回は「意味調べノート」に1ページ目から目を通すと、すべての「ことば」とその「意味」を忘れることはありません。「意味調べノート」も一生かけて作り続け、ボロボロになるまで目を通してくださいね。皆様が驚くような高い学力が必ず身に着きます。「ことばは力」です。
- (15)「意味調べノート」の作り方と活用の仕方は、皆様が将来いろいろな教科や言語(外国語)を学習するときに役立ちます。新しく学ぶ教科ごとに、また、新しく学ぶ言語(外国語)ごとに「意味調べノート」を作り、いつも1ページ目から読み直して「ことばの数」「語彙数」「ボキャブラリーの数」を増やしてくださいね。

Q17:「ことば」の意味はわかるが、その内容がわからないというときはどうしたらよいですか。

A: (1)そのときは、教科の「用語辞典」や「学年別参考書」、「百科辞典」で調べることをお勧めします。

(2)小学生、中学生、高校生の教科の参考書はとてもよくできているものが多いので、自分の学力に合ったもの・自分が読んでよくわかるもの・使いやすいものを少し大きめの書店でお選びください。たまには、東京の大きな書店に行き、半日ぐらいかけて教科の参考書などを選ぶことをお勧めします。

(3)東京の神田にある三省堂書店の6階には教科書コーナーがあり、そこでは日本中の教科書が見られ、お金を払って買うこともできます。是非、1年に1回ぐらいは保護者の方々とともにお出かけになることをお勧めします。(予めHPで場所や営業日、時間などを確認してから行ってください)

(4)各教科の「用語集」も教科書を出版している会社を中心にたくさん出ています。「ことば」の意味だけでなく、各教科の観点から「内容」のより詳しい説明があるのが「用語集」です。「用語集」をよく読むと、「辞書」だけではよくわからない・「理解」できないことも「理解」することができます。

(5)各教科の各単元のより詳しい内容は、「岩波ジュニア新書」や「講談社ブルーバックス」その他数多くの「新書本」や「文庫本」で学ぶことができます。

(6)「学習マンガ」や「学習DVD」も多くの教科で山ほど出ています。

(7)これらのすべてを自分で買い求めることは難しいので、学校の図書室や公立図書館にあるものを大いに活用してください。そこにはないものは「リクエスト」すると、図書館がみんなのために必要と判断した場合には数か月後には備えられることもあります。ですから、あきらめないうで「リクエスト」してみてください。

Q18 :「学校の教科書」や「学校の副教材」、特に「学校の問題集」にある「計算」や「問題」はどうしたらよいですか。授業の前に全部終わらせたほうがよいのですか。

A : (1)時間がかかって大変とは思いますが、自分の力で解けそうな「計算」や「問題」はすべて授業の前にノートに解き、答えを出しておくことをお勧めします。

(2)そのときに注意することは、「学校の教科書」や「学校の副教材」、「学校の問題集」には絶対に答えを書き込まないことです。答えを書き込んでしまうと、同じ「計算」や「問題」を繰り返し解く練習ができなくなるからです。また、教科書や副教材、問題集には解答スペースが少ないため、「計算」や「問題」の「途中経過」を書き残すことができないことが多いからです。

(3)「ノート」には、「計算」や「問題」の「答え」だけでなく。「問題の部分」と「途中経過」も必ず書き写すことです。

(4)自分でやってみてできなかった「計算」や「問題」には、「教科書」や「ノート」の問題番号のところに印を付けておく。そして、学校の授業で習った先生の解き方や正解を「ノート」に書いておくことが大切です。

(5)以上が、自分の力で行う「学校の教科書」「学校の副教材」「学校の問題集」の「理解」の仕方、つまり「予習」です。この意味の予習は、時間があるときに先へ先へとどんどん進め、できれば早めに「教科書」や「副教材」、「問題集」の1冊分を終わらせてしまうことをお勧めします。

Q19 :「予習」は何のためにするのですか。「予習」の意味は何ですか。

A : (1)「わからないところをはっきりさせて授業に臨むために予習は行う」と私は確信します。

(2)そのために、「学校の教科書」「学校の副教材」「学校の問題集」を授業前に自分の力で「理解」するように努める。そして、何がわからないか。「理解」できていなかをはっきりさせる。それが「予習」の意味です。

Q20 :学習の2段階目の「定着」とは何ですか。

A : (1)「予習」や「学校の授業」で「理解」したことを身に着けること。これが「定着」です。

(2)具体的に言えば、一度「うんなるほど」と「理解」した「学校の教科書」「学校の副教材」「学校の問題集」「学校の授業のノート」に書いてあることをスミからスミまで一語残らず、また、一問残らず身に着けること。これが「定着」です。

(3)「定着」のためには、「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」(「計算ポチ問題練習」と呼びます)の3つの練習が極めて有効です。私は、この3つの練習に「定着のための3大練習」という名前を付けました。

(4)結論から言いますと、練習は不可能を可能にします。「定着のための3大練習」は、学校の定期試験では全教科100点満点を英検・漢検・数学検定などの検定試験では合格点を、入

学試験では希望校合格を約束します。「定着のための3大練習」で一度身に着けたものは、生涯にわたって忘れることはありません。ちょっと学習し直せばすぐに思い出し、用いることができます。そのくらい効果のある学習方法です。

Q21: 「定着のための3大練習」の第1の「音読練習」とは何ですか。

A : (1)すべての教科の「学校の教科書」「学校の副教材」「学校の問題集」「学校の授業のノート」などで一度「うんなるほど」とよく「理解」したものを、「スラスラとよく読めるようになるまで声を出して読む練習をすること」です。

(2)「音読練習」の対象にすべきは、すべての教科の「教科書」「副教材」「問題集」「授業のノート」です。

(3)声を出して繰り返し読み、スラスラとよく読めるようにすること。スラスラとよく読めるだけでなく、できればそこに書いてある内容をすべて空^{あん}んじてしまうこと、暗唱できるまでにすることです。

(4)では、何回読めばよいのか。私の尊敬する同時通訳の第一人者であった國弘正雄先生は、^{くにひろまさお}中学校の教科書を何と500回以上ひたすら音読なさり、英語の基礎を身に着けたそうです。

(5)「問題集」や「授業のノート」も「音読練習」の対象とすることが大事です。「学校の問題集」はもちろんのこと、「学校の定期試験」や「実力テスト」「模擬試験」、「英検・漢検・数学検定」、「入学試験」の問題なども、一度問題を解いてなぜそのような解答になるかが「うんなるほど」とよくわかった・よく「理解」できたものは、「問題本文」や「設問」、「選択肢」、解答集のすべての「解説文」をスミからスミまで繰り返し「音読練習」してスラスラと読めるまでにすることです。それが成績急上昇、もっと具体的に言えば偏差値急上昇のポイントとなります。リスニング問題や面接問題も含めすべての問題文の本文、すべての設問、すべての選択肢、解答解説ページのすべての文章について一度解いた問題を辞書を用いて意味調べをし直し、どのような意味の内容かを十分「理解」した上で、すべてスラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」を繰り返すことが英検5級、4級、3級、準2級、2級、準1級などすべての級の合格秘訣と言えます。大学センター試験や高校入試でも全く同じです。

(7)英語だけでなく、「社会」「理科」「国語」「数学」、さらには「音楽」「美術」「技術・家庭」「保健・体育」などすべての教科の教科書、教材、テスト問題の徹底的な「音読練習」は、小学校でも、中学校でも、高校でも、大学でも、大学院でも有効です。司法試験、公認会計士試験、医師国家試験、公務員試験、教員採用試験など、どんなに難しい試験でも極めて有効です。

(8)学校時代だけでなく、一生使える学習方法ですので、この「音読練習」だけでも開倫塾にいる間に徹底的にやり抜き、その方法を身に着けてください。

(9)これほど大事な「音読練習」なのに、実際に本気でやっている人は100人中ほんの数人だけです。この文章をお読みの皆様は、是非その数少ない数人の中に入って頂きたいと思えます。

Q22 : 「音読練習」はそんなに大事なのですね。よくわかりました。「定着のための3大練習」の第2番目の「書き取り練習」とは何ですか。

A : (1) 音読練習を繰り返してスラスラとよく読めるようになった内容を何も見ないで楷書かいしよで正確に書けるようにする練習を「書き取り練習」と言います。

(2) 「楷書」というのは学校の教科書の書体しよたいのことです。書き順も含めて正確に書けるようになるまで何回も繰り返し書く練習をしましょう。

(3) 小学生のときはよくしますが、中学校に入るとおっくうがってあまりやらなくなり、高校に入るとさっぱりしなくなる人が多いのが書き取り練習です。

(4) コンピュータの自動変換や自動読み取りの機能が増したために正確に書けなくても困ることはないと安易に考えないことが大事です。

(5) 社会に出ると忙しくなります。数字や漢字、英語のスペリングなどを美しく、また、正確に書けるよう練習を繰り返すことができるのは学校時代だけである人が多いので、「書き取り練習」ができる今のうちにたくさん練習をしておきましょう。

(6) 「ノート」や「メモ」を取るときに、「漢字」を知らない・英語の正確なスペリングがわからないというのでは困ります。徹底的な「書き取り練習」が求められます。

(7) 「英検」の「過去問集」やその「解答集」で一度やったものの中の英単語で書けないものはゼロにすること。「漢検」も一度やった問題に出ている漢字、つまり、問題本文、設問、選択肢、解答文の中にある漢字はすべて書けるまでにすること。

(8) 英語は、「ブロック体」でも「筆記体」でも美しく書けるようになるまで練習を繰り返すこと。

(9) 英語の「筆記体」など必要ないという意見もありますが、英語でノートを取るときや大事な書類にサインをするときなどにはブロック体では済まない場合があります。いつでも筆記体が書けるような練習だけはしておいてください。

(10) 「筆記体」で書いたものを読まなければならないときに、ブロック体しか習っていないと読むことが難しいことがあります。

Q23 : 「定着のための3大練習」の第3番目の「計算・問題練習」とは何ですか。

A : (1) これは計算と問題の間に「・」印つまり「ポチ」が入りますので、「計算ポチ問題練習」と読んでください。

(2) 「学校の教科書」「学校の副教材」「学校の問題集」「学校の授業中のノート」はもちろん、「開倫塾のテキスト」「開倫塾の副教材」「開倫塾の問題集」「定期試験」「実力テスト」「模擬試験」「3大検定」「入学試験」などありとあらゆる教材の中の「計算問題」と「問題」を解き、なぜそのような答えになったのかという理由や経過が「うんなるほど」とよくわかった・よく「理解」できたものについては、「計算問題」や「問題文」を見た瞬間に正解がパッパッパッと条件反射で出てくるまで繰り返し何回も解く練習をすること。これが「定着のための3大練習」の3番目の「計算・問題練習」です。

(3)例えば、 5×3 という計算問題を見たら、その瞬間に 15 という答えが出るまでかけ算九九の練習をする。例えば、 $a + a = 2a$ 、 $(a + 9)(a - 9) = a^2 - 81$ とパツ、パツと答えが出るまでにする。

(4)例えば、「日本国憲法の 3 大原理は」という問題が出たら、「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」とパツパツパツと答えられるようにすることです。

(5)もちろん、この前提として「日本国憲法」とは何か、「国民主権」とは何か、「基本的人権の尊重」とは何か、「平和主義」とは何かについて、「うなるほど」とよく「理解」しておくことが大切です。よく「理解」した内容や問題について、問題を見た瞬間にパツパツパツと条件反射で正解が出るまでにする。これが大切です。

Q24 : 学校や学校以外の試験で100点満点や合格点を取るにはどうしたらよいのですか。

A : (1)過去に出題された問題(過去問かこもんと言います)を最低でも 5 年分以上手に入れ、同じ問題を 5 回以上解き直すことです。

(2)間違えた問題は、問題番号のところに印をつけておくこと。

(3)なぜ間違えたのか原因をよく考え、「理解」不足なら「学校の教科書」や「学年別参考書」「学校の授業中のノート」などをもう一度学び直すこと。

(4)間違えた原因が「理解」はしているが「定着」不足であるなら、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返す。

(5)ケアレスミス、うっかりミスなら、次回は「気を付けて」解くこと。

(6)このような手順プロセスごとうぶんせきで間違えた原因を自分の力で推定して、その対策を自分で考えて行うことを「誤答分析」と私は名付けました。

(7)「過去問」5 年分を用いた「誤答分析」を 5 回やり通すことが、「100 点満点」「合格点」を取るコツです。

Q25 : 「社会で用いることができる」ようにするにはどうしたらよいですか。

A : (1)「学校の教科書」「学校の副教材」「学校の問題集」「学校の授業中のノート」、それに普段使っている「国語辞典」「英和辞典」「各教科の用語集」などを、学校を卒業しても処分しないで一定の場所に保存し、10 年に 1 回ずつでも O.K ですから折に触れて「読み直す」ことです。

(2)特に「学校の教科書」と「学校の授業中のノート」、それに「辞書」と「用語集」だけは一生にわたって手元に置き、絶えず「学び」続けること。

(3)学校で学んだことはすべて次の上級学校で役に立つと同時に、社会に出ても役に立ちます。死ぬその日まで役に立ちます。どうか御自分の「宝物」の一つとして大切にしてください。

Q26：学力が高い人に共通していることは何だとお考えですか。

A：(1)3つあります。その第1は、「学習の仕方」を身に着けることです。その第1は、「理解」の仕方、「定着」の仕方、「応用」の仕方をよく身に着けている人が学力が高いと私は考えます。

(2)その第2は、「読書による思慮深さ」を身に着けていることです。

①読書には、一語一語かみしめながら読む「精読」と、どんどん本を読む「速読」があります。

②私が皆様に御提案したいのは、1か月に1冊ずつ、各長期の休みに1冊ずつ、合計で1年に15冊を「精読」することです。

③もう1つ御提案したいのは、毎週1冊、1年に50冊、どんどん本を読む「速読」を行うことです。

④年に15冊の「精読」と年に50冊の「速読」で、合計65冊となります。私は、学校にいる間はいつも精読用の本1冊と速読用の本1冊の合計2冊をカバンの中に入れて持ち歩き、年に65冊を目標に読書をお進めになることをご提案します。

⑤そして、本を読んでいて気に入った「文章」や「語句」(ことば)に出会ったら、「書き抜き読書ノート」に書き写す。そして、その「書き抜き読書ノート」をいつも1ページ目から繰り返し読み直し、自分のもの、自分の血や肉にしてしまうことです。そうすることにより、「深く考える力」や「思慮深さ」が少しずつ生まれると思います。

(3)その第3は「新聞を毎日読むことにより自分で考える力、批判的思考能力を身に着けている」ことです。

①新聞は「社会の番犬(watch dog ウォッチ・ドッグ)」と言われます。

②地域や日本、世界など社会の中で毎日起こっている出来事の中で、新聞社が、これは社会の将来のために取り上げておいたほうがよいと考えることを記事として新聞読者に伝えるのが新聞です。

③これからの社会の課題を考える手がかりを与えてくれるのが新聞です。

④新聞を読むと様々な情報や知識、教養も得ることができます。

⑤「新聞は社会の公器(こうき)」「新聞は文化そのもの」と呼ばれるのはこのような理由からです。

⑥是非、たとえ5分、10分でもよいですから新聞を毎日読み、世の中は果たしてこれだけのかを「自分で考える力」、「批判的思考能力」を身に着けてください。

⑦新聞を読んでいて気になった記事は、保護者の皆様の許可を得てハサミで切り抜き、のりでノートに貼りつけ、自分の意見も書き込んで「スクラップブック」をお作りになることをお勧めします。

Q27：最後に一言。学力が身に着くと人生はどうなりますか。社会はどうなりますか。

A：(1)「多様な選択肢のある人生」を歩むことができます。

(2)社会は「正常に機能する社会」になる可能性が高まります。

以上